

研究テーマ 博学連携やゲストティーチャーの活用を通して、  
興味・関心を高める指導の工夫  
—第3学年 「移り変わる市の暮らし」—

**【提案】**

新学習指導要領では、新たに「移り変わる市の暮らし」が加わった。自分たちが暮らしている市の資料を見つけること、用意することは簡単なことではない。そこで、市立博物館などとの連携（博学連携）や、長い間その地域に暮らしていた方からお話を頂くゲストティーチャーの活用を行うことで、より児童に興味関心をもたせるようにする。資料を提示することや、実際にインタビューをすることでより主体的に学習することができると考えた。



【市立博物館で洗濯体験をしている児童の様子】

## 1 実践のポイント

### (1) 博学連携を効果的に活用した学習活動

本実践は、市の副読本に掲載されている「昔の道具と暮らし」や「移り変わる暮らし」で行われている昔の道具や暮らしの体験を行う学習活動を中心に取り入れる。現在は、洗濯機で自動に洗濯することができているが、ここでは洗濯板とたらいを活用した体験を行う。ただの体験で終わらず、その時代ごとに工夫して暮らしていたことを押さえたい。また、「移り変わる暮らし」では、現在と昔の市の様子について実物を用いて比較することで、人々の生活の様子の変化を考えさせたい。具体的には、交通や公共施設、土地利用、人口の変化について展示資料から読み取らせたい。そのために、博物館と連携を図り、それぞれの資料を活用したり、博物館員から実際に話を聞いたり見学させたりしたい。

### (2) ゲストティーチャーを活用した学習活動

本実践では、「移り変わる暮らし」の学習の導入とまとめで取り入れる。疑問や調べる意欲をもたせるために、当時の様子や、当時求めていたことなどについてのお話をうかがったり、インタビューをしたりする。その後、今まで学習してきたことをまとめる際、新たな発見や疑問が生まれてくる。この時に、再びゲストティーチャーをお招きし、当時の様子や児童がもっている疑問や発見の検証などについて答えていただく。ただし、事前に児童がもっている疑問や質問の項目を伝えることや、話していただく内容を打ち合わせておく必要がある。

## 2 実践の位置付け

### (1) 小学校学習指導要領との関連

内容(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

本小単元では、初めて時間的な見方・考え方を働かせる学習である。したがって、時代の変化がわかる資料を丁寧に読み取って共通点や相違点を見だし、時間の経過によって、人々の生活の様子が移り変わってきたことを理解させる必要がある。また、地域の方に聞き取り調査をしたり、地図などの資料を使って調べたものを年表などにまとめたりしていく。

### (2) 実践のポイントの学習評価との関連

・子供を伸ばすフィードバックの実施

今回の単元を学習する際、ゲストティーチャーを招いて「昔のさいたま市の様子」や「これからのさいたま市の発展」について話していただく。その際、事前に児童自身で「これからのさいたま市の発展」について考えておく。最初は個人で考えるため、自己中心的な市の発展が考えられる。しかし、ゲストティーチャーの講話から、自分だけでなく、地域の方の願いなどの様々な視点をもたせて「市の発展」について考えることで、多面的・多角的な見方を働かせることができるようにする。その後、最初の考えと今の考えを比較することで、より考えが深まったと実感を伴って学習を振り返ることができる。

## 3 実践の内容

### (1) 小単元の目標と評価規準

市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることを通して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え表現し、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、聞き取り調査をしたり、地図などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の移り変わりの様子を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。</p>	<p>①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見出し、市や人々の生活の移り変わりについて考え表現している。</p> <p>②交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの今と昔を比較・関連付けたりして、市や人々の生活の様子の変化を考えたり、学習したことを基に市の発展について考えたりして、適切に表現している。</p>	<p>①市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p>

(2) 指導計画と評価計画(14時間)

○内の数字は、時間を表す。  
 〈 〉内は評価の方法を表す。

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

知：知識・技能 思：思考・判断・表現

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	①② 身近な地域やさいたま新都心の昔と今の写真を見比べ、違いについて考え、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・今の様子 ・生活が発達している様子 ・昔の様子 ・昔と今の移り変わり <b>実践のポイント(2)</b> 学習問題	態① 道具と人々の暮らしの変化を調べる学習問題について予想し、学習への見通しを立てて主体的に追究しようとしている。 〈ノート・発表〉 思① 昔と今のさいたま新都心駅周辺の風景を比較し、その違いを考え、表現している。 〈ノート・発表〉	・身近な地域の今と昔の写真 ・現在のさいたま新都心駅 ・昔のさいたま新都心駅 ・大昔のさいたま新都心駅
	さいたま市のように、どのようにかわってきたのだろう。		
調べる	③ 140年前と50年前の交通網地図を比べて、その移り変わりについて話し合う。 ・昔の交通 ・交通の移り変わり ・交通が発展してきたこと ④ 140年前と50年前の土地利用図を比べて、その移り変わりについて話し合う。 ・昔の土地利用 ・土地利用の移り変わり ・住宅が増えてきたこと ⑤ 140年前と50年前の主な公共施設の分布図を比べて、その移り変わりについて話し合う。 ・昔の学校の数 ・公共施設の移り変わり ・税金 ⑥ 市の人口変化のグラフを読み取り、その移り変わりについて話し合う。 ・昔の人口 ・人口の移り変わり ・市の高齢化・国際化	知① 交通機関の関係者にインタビューしたり、新旧の交通網地図を比較したりして、わかったことを絵カードや年表にまとめ、交通の移り変わりを理解している。 〈絵カード・発言〉 知① 農家にインタビューしたり、新旧の土地利用図を比較したりして、わかったことを絵カードや年表にまとめ、土地利用の移り変わりを理解している。 〈絵カード・発言〉 知① 公共施設の職員にインタビューしたり、新旧の公共施設の分布図を比較したりして、わかったことを絵カードや年表にまとめ、公共施設の移り変わりを理解している。 〈絵カード・発言〉 知① 自治会関係者や高齢者などにインタビューしたり、人口のグラフを読み取ったりして、わかったことを絵カードや年表にまとめ、人口の移り変わりを理解している。 〈絵カード・発言〉	・鉄道博物館の様子 ・整備後の道路 ・主な鉄道や道路の様子 ・新幹線 ・旧与野市の本町通りの様子 ・土地の使われ方の様子 ・大宮区役所ではたらく人々 ・さいたま市の新旧の公共施設の分布図 ・人口の移り変わり ・65歳以上の人数 ・外国人の人数 ・市役所の人の話

	<p>⑦ 昔の道具について調べ、その移り変わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の使い方</li> <li>・道具の種類</li> <li>・道具のうつりかわり</li> </ul> <p>⑧・⑨ 博物館に行き、昔の道具について、体験学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の道具の使い方</li> <li>・昔の道具の様子</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p> <p>⑩ 昔のくらしの様子について調べ、道具がかわったことでくらしがどのようにかわったのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の台所の様子</li> <li>・電化製品が広まったところの台所の様子</li> </ul> <p>⑪・⑫ これまで作成した絵カードを年表に追加し、それぞれの移り変わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの移り変わり</li> </ul>	<p><b>知①</b> 生活の道具の違いについて、聞き取り調査や資料から情報を集め、読み取って調べ、生活の道具の変化を理解している。〈発言・ノート〉</p> <p><b>知①</b> 生活の道具の違いについて、道具などの変化に着目し、体験活動を通して、生活の道具の変化を理解している。〈発言・ノート〉</p> <p><b>知①</b> 生活の道具の違いについて、聞き取り調査や資料から情報を集め、読み取って調べ、生活の道具の変化を理解している。〈発言・ノート〉</p> <p><b>知②</b> 調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。〈発言・ノート〉</p> <p><b>思②</b> 交通、土地利用、人口、公共施設の変化について年表にまとめ、その移り変わりについて表現している。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具年表</li> <li>・道具の変化の写真</li> <li>・昔の道具（洗たく板）</li> <li>・昔の道具</li> <li>・昔の台所の様子</li> <li>・電化製品が広まったところの台所の様子</li> <li>・暮らしの移り変わり年表</li> <li>・絵カード</li> </ul>
<p><b>学習問題の結論</b></p> <p>さいたま市は140年くらい前から鉄道や駅、道路などがつくられてきた。その後、住宅地が増え、人口も増えていき、交通や土地利用、公共施設などが大きく変わり、みんなが住みやすく、くらしやすいよう移り変わっていった。また、市の合併により、今のさいたま市ようになってきた。</p>			
<p>まとめる</p> <p>・生かす</p>	<p>⑬ これまでの学習に基づいてこれからの市の発展について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化・少子高齢化</li> <li>・これからのさいたま市について</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p> <p>⑭ これからの市の発展についてポスター形式でまとめる。</p>	<p><b>態②</b> 学んだことを基に、さいたま市の発展について、市民の一人として願いをもち、協力していこうとしている。〈発言・ノート〉</p> <p><b>思②</b> 学習したことを基に市の発展について考え、適切に表現している。〈発言・ポスター〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいたま新都心での車いす体験の様子</li> <li>・さいたま市の人口の移り変わりの予想</li> </ul>

## (1) 博学連携を効果的に活用した学習活動

教科書や副読本にある資料を読み取るだけでなく、博物館員から話を聞いたり、昔の道具を体験したりする活動を通して、より興味・関心を高めることを行った。



【博物館員から話を聞く様子】

昔の様子を授業だけでなく、実際に話を聞くことで当時の生活の様子ももっとわかるようになった。  
もっと昔のことを調べてみたいな。

新しい発見をすることができた。これからは調べたいときは博物館や図書室などいろいろなところに行って調べてみようかな。



【実際に体験している様子】

実際に昔の道具を使うと、今の道具の便利さがとても伝わってくるね。昔の人はすごく苦労や努力をしてきたんだな。

簡単な道具を使うとこんなに楽に色々なことができるね。昔の人もたくさんくふうをして過ごしてきたんだとわかったよ。

体験学習を通して、児童の興味関心を高めることができた。

### 期待できる3つの効果

博物館を利用することによって、教育活動を充実させることができる。

博物館を生涯にわたって活用しようとする意欲や態度、能力の基礎を養うことができる。

学校と地域が一体となって子どもの教育を進めようという機運を醸成することができる。

①実際に実物を見たり専門家から説明を聞いたりして学ぶ方がはるかに高い教育効果を期待することができる。

②現在の学校教育の充実を図ることができる。

③それぞれの施設や機関などの専門性を生かしながら子どもの教育に当たることが求められる。

知識だけでなく、体験活動によって、当時の様子・思い・くふうなどについて考えることができる。

将来さまざまな社会教育施設を利用し、生涯にわたって学習に取り組むことができる。

今後疑問や問題に対して、専門性のある施設を理解しているとそこを活用し学びをすすめたり、深めたりすることができる。

## (2) ゲストティーチャーを活用した学習活動

「移り変わる市の暮らし」の導入の場面で、自分たちが住んでいるところの昔と今の様子の写真を調べ、今と昔の違いについて考えることができる。そこで、当時のことを知る地元の方をゲストティーチャーとして招く。子どもたちの前で、当時の様子や思いを話してもらい、学習への見通しや調べたい意欲をもたせる。

また、「いかす」の場面で、これからのさいたま市の発展を考える学習でもゲストティーチャーを活用する。そこでは、子どもたちが考えた未来のさいたま市に対して自分の思いを話したり、アドバイスをしてもらったりし、子どもたちへのより実感の伴った学習へ展開していく。



【ゲストティーチャーから話を聞く様子】



【ゲストティーチャーから話を聞く様子】

昔の大宮って今とこんなに違うのか…。初めて知ったよ。

当時は大宮をいい街にしたいという思いがあったんだね。今はとてもいい街だね。

これからは、もっと大宮のことを大切にして過ごそう。

普段の資料だけでなく生きた資料を活用することで、より多面的・多角的に物事を考えることができるようになる。

## 5 研究の成果と今後の課題

### 〈成果〉

- ・「つかむ」過程で問いを生かした問題解決を行い、そこから生まれた疑問を基に学習問題を立てたことで、児童の解決意欲を高めることができた。その際に、ゲストティーチャーの話を放映することで、市の移り変わりについてより身近なものとして考えることができた。また、その場で疑問に対する予想を立てることで、その予想をもとに学習計画を考えることができた。
- ・博学連携することで、学校にはない資料で体験的に学習することができ、学習活動を充実させることができた。
- ・博物館や地域の人に実際にインタビューすることで、確証をもって学習を進めることができた。また、ICTを効果的に活用することで、より意欲的に活動することができた。

### 〈課題〉

- ・授業のねらいを明らかにした上で、ゲストティーチャーや博物館員と打ち合わせをすることにより、よりねらいに迫った学習を展開することができる。また、話をしてもらう内容を事前に精選することで、掴ませたい内容をより確実に理解することができる。
- ・読み取らせたい内容に焦点化させて学習を展開していくことも必要である。